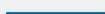


何も無くなり 祈りともに  
為すがままに 旧約聖書ヨブ  
記より

小泉友美 日阿  
KOIZUMI Tomomi





# 目次

何も無くなり 祈りとともに 為すがままに旧約聖書ヨブ記より 精神的試練 . . .	1
---	---



## 何も無くなり 祈りとともに 為すがままに旧約聖書ヨブ記より 精神的試練

何も無くなり 祈りとともに為すがままに 旧約聖書ヨブ記より 精神的試練を考える

旧約聖書ヨブ記は、精神的試練の書です。

実に恐ろしい書です。

兄弟、友人、財産、健康、名誉、すべて無くなってゆく中で、ヨブは神を呪う事はせず、為すがままに。

謙虚であれば、繁栄する訳でも無く、神より与えられた苦悩と試練の意味は、人間の理解をはるかに超えたものです。

七人の息子と三人の娘、羊七千匹、らくだ三千頭、牛五百くびき、雌ろば五百頭の財産があり、東の国一番の富豪(ヨブ記1章3節)でしたが、ヨブの神への絶対の信仰心を試す為に、大変な苦難が課せられました。

兄弟、友人、財産、健康、名誉もすべて無くなっていく中で、ヨブを疑いながらも、心配で訪れた三人の友人達(エリファズ、ビルダド、ツォファル)の間で順番に交わされる対話と、苦難は自分自身の引き起こした悪しき行いに対する報いであるという慣習的な教えとともに、最後に神の言葉で締めくくられます。

天地創造に示された力と知恵に目を向けなさいと、語ります。

ヨブ記の中で、ヨブはその苦しみの中、人間的な怒りを隠そうとはせずに苛立ち、自分自身と世の中の事象を責めましたが、妻が神を呪う様にヨブに勧めてもヨブは従いませんでした。

ヨブは神の存在を呪いませんが、神との議論をしようと願いました。神は、自分と人間は対等に話せない事をヨブに戒めて、更に、軽々しく物を神に言ってはいけない事を悟らせました。ひたすらに、神を畏れ敬う事を理解させました。自分を誤解していた友人達の為にもヨブは祈り、神の赦しを得ました。そして、神の祝福より、更なる二倍の財産を得て、一時的に縁を切った兄弟姉妹、かつての知人達がこぞってヨブの元を訪れて食事を共にして、神によってヨブに与えられたすべての災いについて慰めてくれました。そして、神はヨブを以前にも増して祝福しました。

ヨブは、羊一万四千匹、らくだ六千頭、牛一千くびき、美しい七人の息子と三人の娘をもうける事が出来、ヨブはその後百四十年生き、長寿を保って、子、孫、四代の先まで見る事が出来たといえます。

ヨブの受けた試練は、人間の意思によって、謙虚であれば繁栄する訳でも無いという事を深く考えさせられました。神より与えられた苦難と試練の意味は、人間の知性と理解をはるかに超えたものです。

ヨブ記の内容は、

1章より2章(プロローグ)において、ヨブは裕福かつ、善良な人物でした。神とサタンとの意見交換。サタンは神より、ヨブを試す許可を得ました。ヨブは息子達と娘達を失い、家畜を敵達に奪われました。

3章より31章において、ヨブと3人の友人達(エリファズ、ビルダド、ツォファル)との論争。

38章より41章において、ヨブは自分にとって、予知出来無い事が起こる事を認めました。

42章において、ヨブの悔い改め、そして神の赦しと、繁栄、立場の回復。

以下、ヨブの受けた試練とは何かまとめますと、

私にはもはや助けとなるものはない。力も奪い去られてしまった(6章13節)

自分の兄弟達に嘲られた(6章15節)

かさぶたに覆われた肉(7章5節)

悪夢にうなされる(7章14節)

空しさを感じる(7章16)

嘆きに身を委ね、悩み嘆いて語ろう(10章1節)

物笑いの種となる(12章4節)

ヨブの人生の計画と心の願いが失われた(17章11)

兄弟を私から遠ざけ、知人を引き離れた。親族も私を見捨て、友達も私を忘れた。私の家に身を寄せている男や女すら私をよそ者とみなして、敵視する(19章13節より15節)

妻にも嫌われ、子供達にも憎まれる(19章17節)

親友のすべてに忌み嫌われる。愛していた人々にも背かれてしまった (19 章 19 節)

骨は皮膚と肉とにすがりつき、皮膚と歯ばかりになって私は生き延びている (19 章 20 節)

ヨブが試練にあって、最終的に悟った事は、ヨブ記 42 章 1 節より 6 節に表現されています。

" あなたは全能であり

御旨のせい成就を妨げることはできないと悟りました。

" これは何者か。知識もないのに

神の経綸を隠そうとするとは。 "

そのとおりです。

わたしには理解できず、わたしの知識を超えた驚くべき御業をあげつらっておりました。

" 聞け、わたしが話す。

お前に尋ねる、わたしに答えてみよ。 "

あなたのことを、耳にしてはおりました。

しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます。

それゆえ、わたしは塵と灰の上に伏し

自分を退け、悔い改めます。 "

日本の神道の古事記においても、精神的試練に関する話があります。

大國主神 (オオクニヌシ) は荒ぶる神・素戔鳴尊直系の孫です。八上ヒメ (ヤガミヒメ) をめぐって、自分の男兄弟達 (八十神ヤソガミ) に恨まれて、迫害されました。

兄弟の八十神は猪に似た大石を火で焼いて転がし落として、大國主は石の火に焼かれて死にました。しかし、天上の神産巢日神 (カミムスビ) に救われて、大國主は生きかえりましたが、八十神は復讐心を募らせて、再度殺害を試みました。大木を切り倒して、その割れ目に大國主を入らせて、打ち殺しました。大國主神の母神の哀しみによって大國主はまた生き返りましたが、根の国 (地獄) にいる素戔鳴尊の元へと向かって、素戔鳴尊の娘のスセリビメと出会ってお互いに魅き合いましたが、父親の素戔鳴尊は大國主に試練を与えました。

まず蛇の室 (むろや) に閉じ込め、ムカデと蜂のいる室に閉じ込め、火を放って焼死させようとしたのですが、その度にスセリビメの案によって救われました。

そして、大國主はスセリビメの和琴を背中に背負い、素戔鳴尊の刀と矢を持って逃げて、最後は追って来た八十神を追いだして、義理の父の素戔鳴尊の赦しを得て、素戔鳴尊の娘のスセリビメと立派な宮殿に住まいを構えて、国づくりを始める事が出来ました。

この神道・古事記における大國主神が受けた精神的な試練は、おのれへの力試しでした。聖書のヨブ記の試練は、人間としての心身の弱さの限界を全能の神に委ねるものでした。

このヨブ記を読むと、いかに人間にとって生きる事は美しい事もあるけれども、試練に

よって苦しむ事も多いとわかります。

私自身、物質的には不足していませんでしたが、思春期特有のジレンマと反抗心、拒食症と過食症を繰り返して、よく授業を休みがちで吉祥寺のコーヒー店でアルチュール・ランボーの詩に没頭して、果たして単位が取れるか、将来の不安に思い悩む中、偶然手にした聖書のヨブ記の内容が当時解らずに、読んだ思い出があります。

ヨブの様に、何も無くなり、祈りとともに為すがままに、信仰心を持つ事での絶望の中の希望を、今、深く考えさせられます。

開かれた信仰と祈りとともに

平和

2026年4月15日 フランス・アンジェ Angers

小泉友美 日阿



---

何も無くなり 祈りともに 為すがままに 旧約聖書ヨブ記より

---

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---